

2. 首都直下地震等の被害想定

わが地区の災害時の危険性を「鳥の目」で把握するために、最新の被害想定等のデータや地図を学習し、災害時の被害をイメージしましょう。

(1) 東京都の被害想定

◎東京湾北部地震による東京都の被害想定 (平成24年4月18日、東京都公表)

○首都直下地震、東京湾北部地震 (M7.3)、
冬の夕方 18時・風速 8m/秒

人的被害	原因別	死者	約 9,700	人
		揺れ	約 5,600	人
		火災	約 4,100	人
	負傷者 (うち重傷者)	約 147,600	人	
		(約 21,900)	人	
原因別	揺れ	約 129,900	人	
	火災	約 17,700	人	
物的被害	原因別	建物被害	約 304,300	棟
		揺れ	約 116,200	棟
	火災	約 188,100	棟	
避難者の発生(ピーク:1日後)		約 339万	人	
帰宅困難者		約 517万	人	

◎東京湾北部地震による板橋区の被害想定 (平成24年4月18日、東京都公表)

○首都直下地震、東京湾北部地震 (M7.3)、
冬の夕方 18時・風速 8m/秒

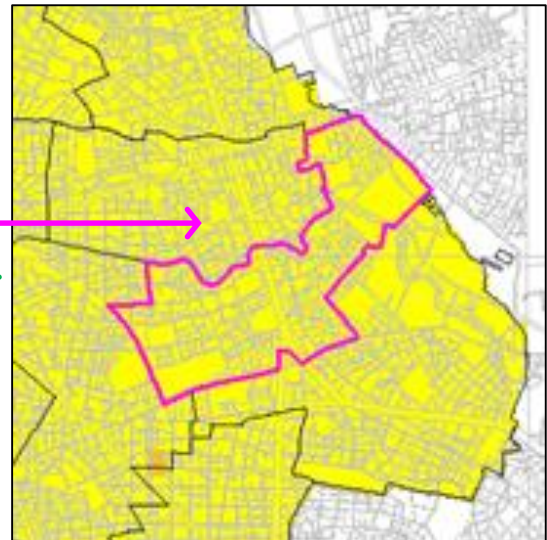
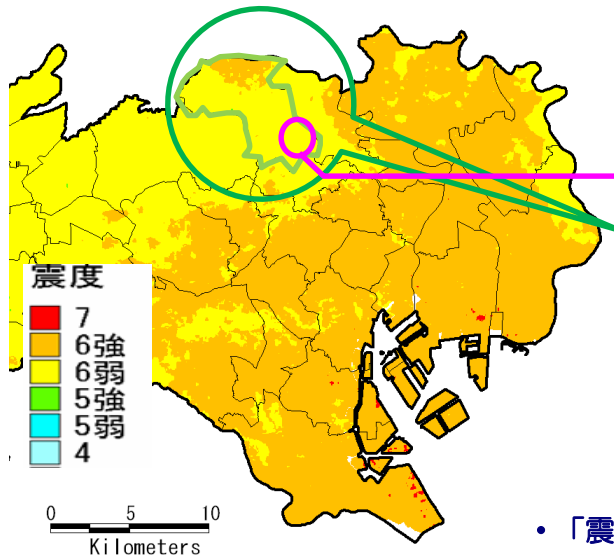
- 死者：81人(0.02%)
- 負傷者：2,657人(0.5%)
- 建物全壊：1,656棟(1.8%)
- 建物焼失：747棟(0.8%)
- 避難者：71,832人(13.4%)
- 帰宅困難者：104,123人(22.81%)

(注) 比率は、死者・負傷者・避難は夜間人口比で、
帰宅困難者は昼間人口比で算出。

(注) 火災は冬の18時・風速8m/秒の想定

出典：H24 東京都防災会議 首都直下地震等による東京
の被害想定報告書

①想定震度分布

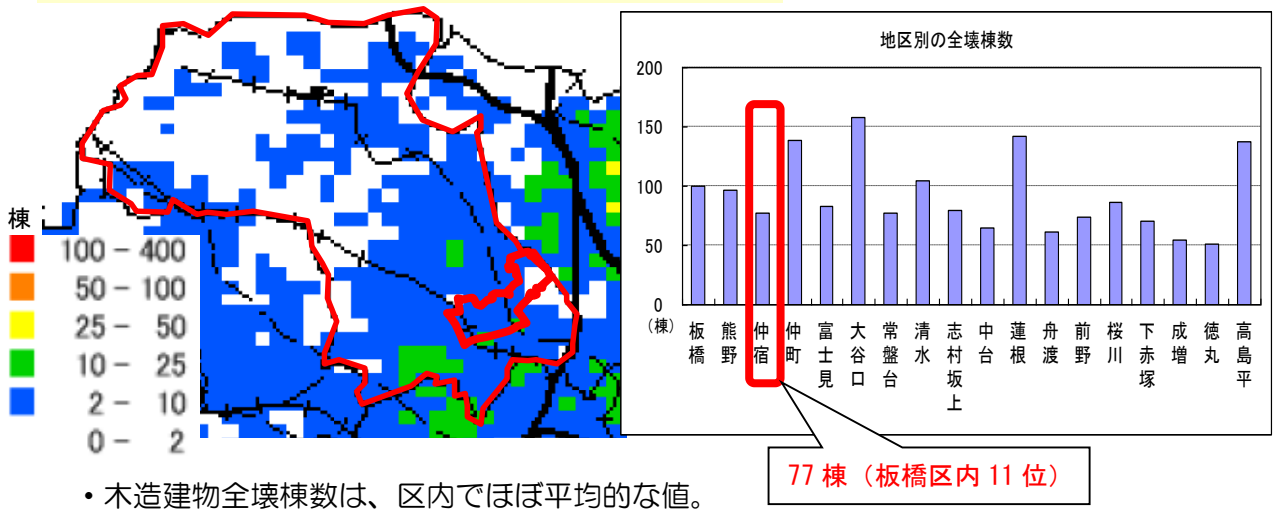


・「震度6弱」とは？

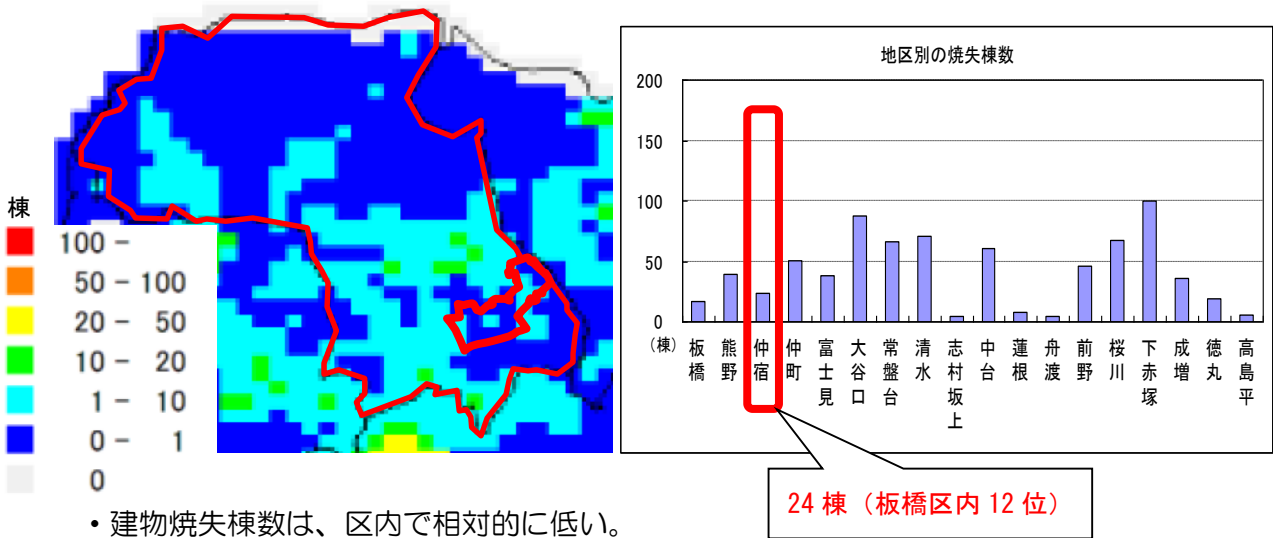
- ・東京湾北部地震 (M7.3) の想定。
- ・板橋区は、ほとんどの範囲で震度6弱、一部、北部に震度6強が想定されている。
- ・仲宿地区は、震度6弱となっている。

人の体感	立っていることが困難になる。
屋内の状況	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
屋外の状況	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。

②木造建物全壊棟数の分布（ゆれ）



③建物焼失棟数の分布（火災）（冬 18 時・風速 8m/秒）

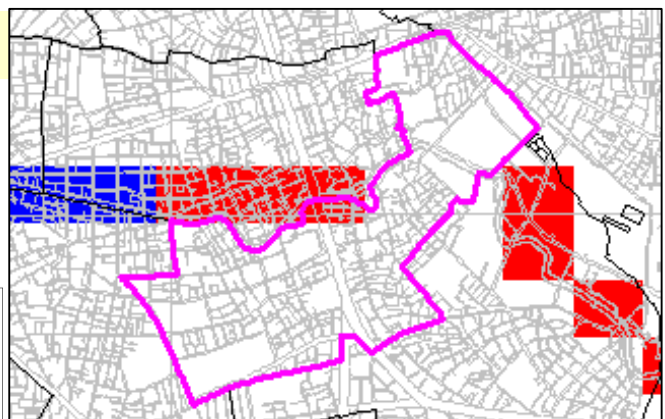


(2) 東京都の液状化予測

液状化危険度の分布

- ・液状化危険度は低い。
- ・石神井川周辺に一部、液状化の可能性の高い地区がある。

液状化危険度
■ 可能性高い
■ 可能性低い
 可能性なし



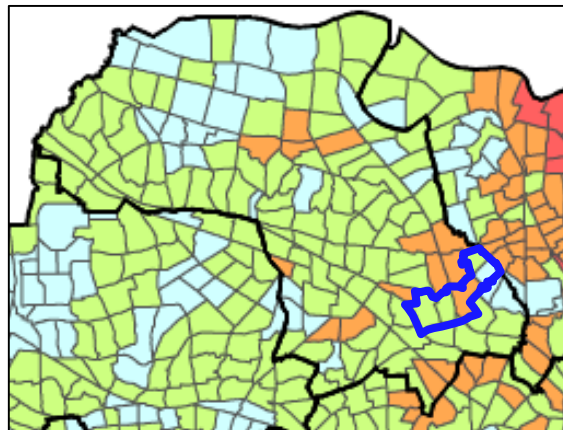
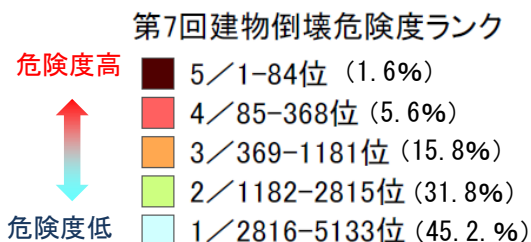
(3) 地震に関する地域危険度

出典:H25 東京都 地震に関する地域危険度測定調査報告書

町丁目別の地域危険度測定調査を実施し、5,133 丁目を相対的に5段階評価したもの

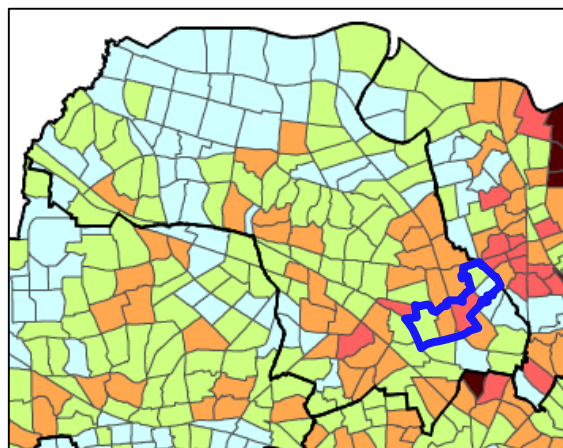
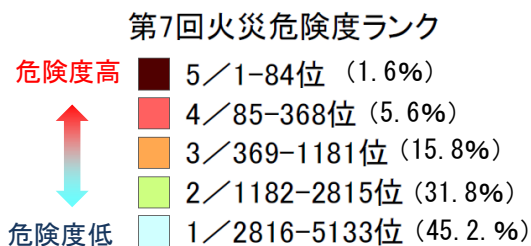
①建物倒壊危険度

- ・建物倒壊危険度が3の高い地域がある。



②火災危険度

- ・火災危険度4および3の高い地域がある。



(4) 板橋区洪水ハザードマップ

(H17. 7 作成)

新河岸川・石神井川版

- ・平成12年9月の東海豪雨と同様の降雨があった場合の浸水状況を想定。
- ・石神井川沿いで浸水が想定されている。

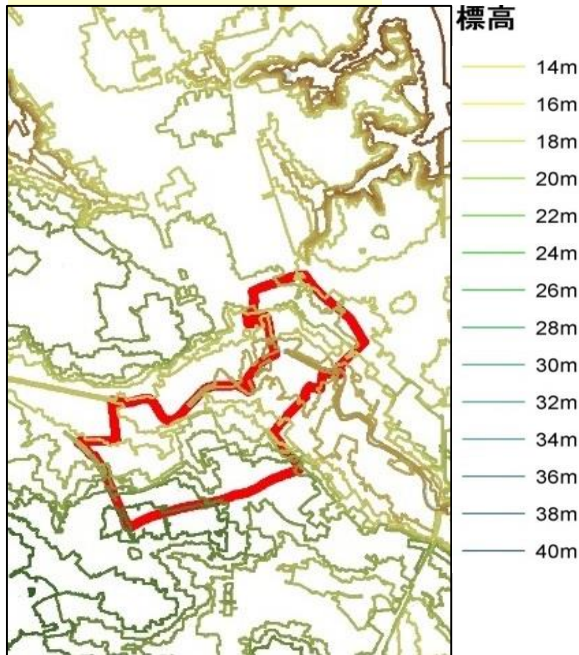
大規模浸水時避難所	●
小規模浸水時避難所	◆
避難所とならない学校	●
区役所	◎
河川	—
水の深さ 2.0m以上	■
水の深さ 1.0m～2.0m	■
水の深さ 0.5m～1.0m	■
水の深さ 0.2m～0.5m	■



3. 仲宿地区の地域特性

地域特性（地盤、土地利用、建物属性、人口特性データ等）から、わが地区の災害時の被害をイメージしましょう。

① 地形



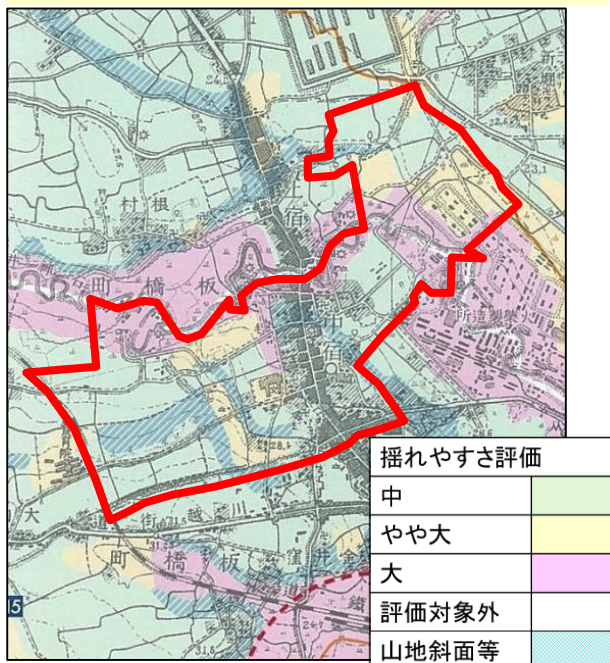
- 標高は、最北部（稲荷台北部あたり）22m、最南部（健康長寿医療センターあたり）32m、石神井川付近 16m。

② 土地条件図



- 石神井川周辺に盛土地・埋立地が見られる。
- 山地斜面等が散在する。

③ 旧版地図・地盤の揺れやすさ評価



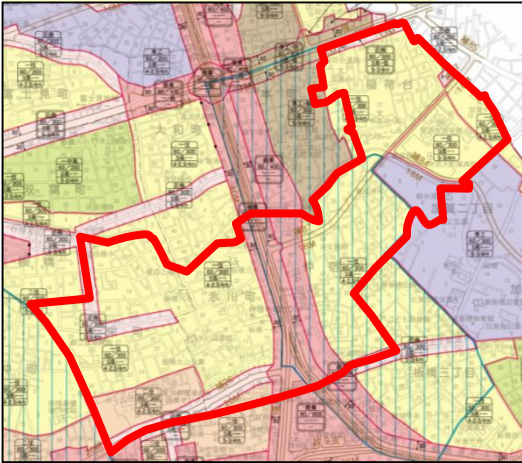
- 更新世段丘の揺れやすさが「中」であるが、石神井川周辺は揺れが大きい。

④ 土地利用-都市基盤



- 幹線道路や鉄道の利便性が高い。
- 区の機能が集積するエリアに近い。

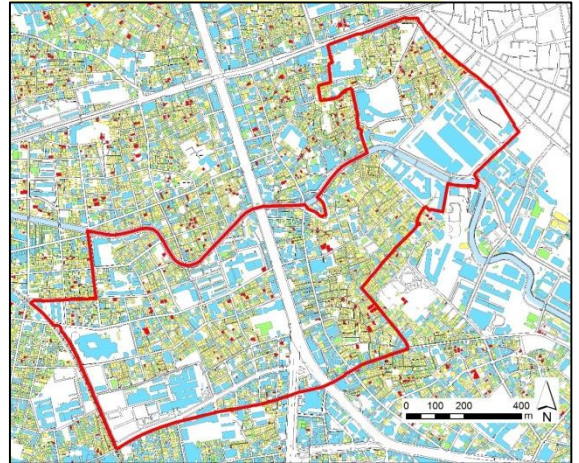
⑤土地利用-用途地域



- 基本的に住居系の用途地域が中心。
- 商業系も幅員道路沿いに見られる。
- 工業系は減少傾向にある。

一中高	第一種中高層住居専用地域
一住	第一種住居地域
二住	第二種住居地域
近商	近隣商業地域
商業	商業地域
準工・特	準工業地域(第二種特別工業地区)
準工	準工業地域

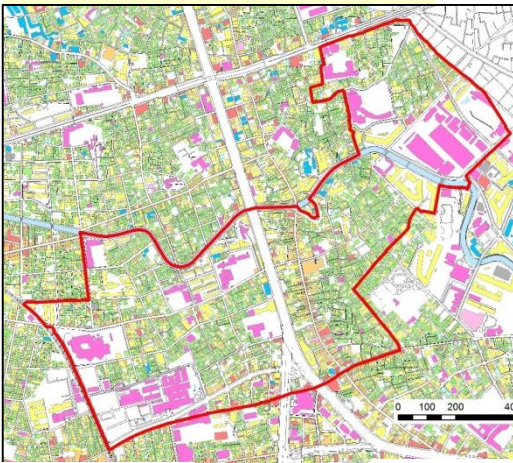
⑥建物属性-建物構造



- 耐火構造 ■ 防火造
- 準耐火造 ■ 木造

- 防火造、木造が多く、棟数割合で60%を超える。

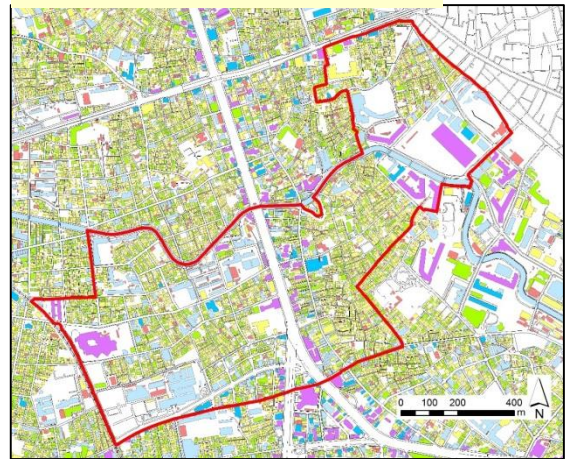
⑦建物属性-建物用途



- 公共・公益施設 ■ 独立住宅 ■ 専用工場
- 商業・業務建物 ■ 集合住宅 ■ 住居併用工場
- 住商併用建物 ■ 倉庫運輸関係施設

- 独立住宅の多い地域であり、棟数割合では、独立住宅が60%を超える。

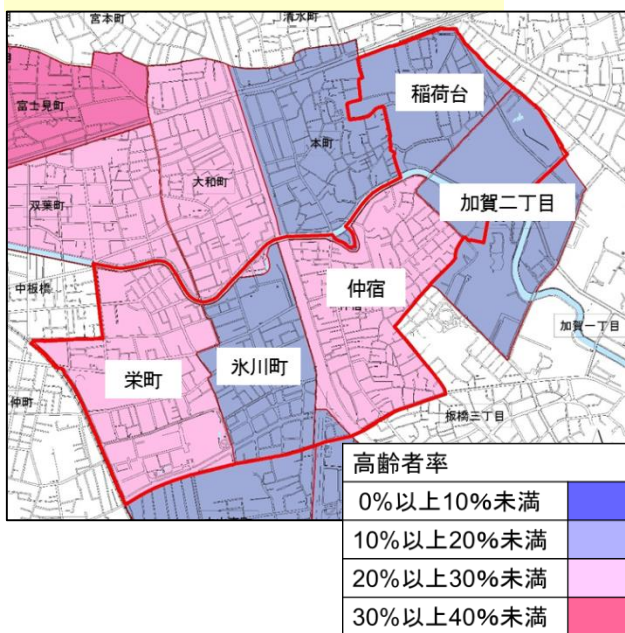
⑧建物属性-建物階数



- 1階 ■ 4階～6階
- 2階 ■ 7階～9階
- 3階 ■ 10階～18階

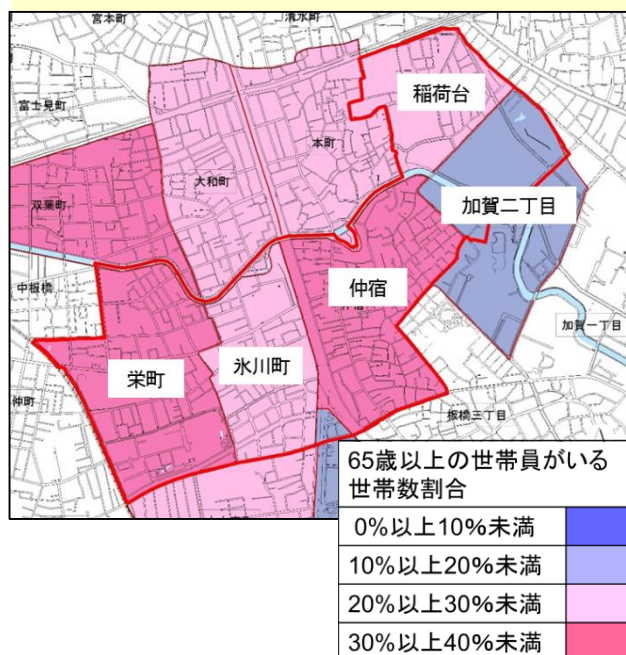
- 3階以下の建物が90%以上を占める。
- その中でも、2階以下の建物が70%近くを占める。

⑨人口属性-高齢者率（町丁目別）



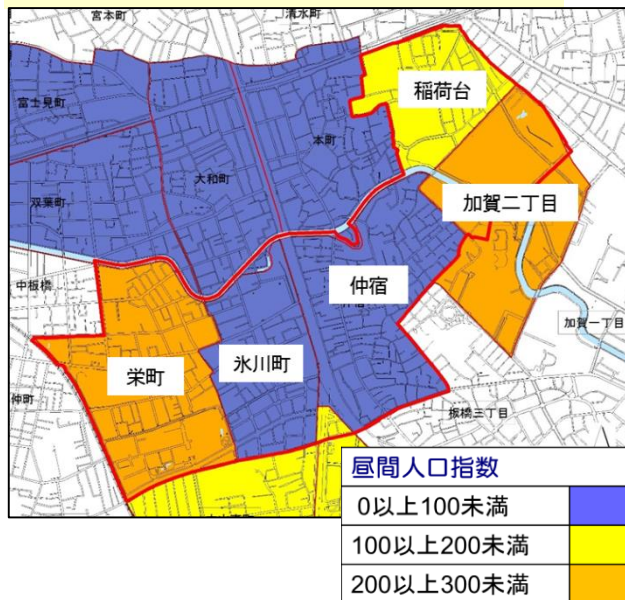
- ・ 高齢者率（65歳以上）は、区の平均値（21%）より低いところが多い。
- ・ 加賀二丁目の割合は、区の平均値のほぼ半分である。

⑩人口属性-高齢者がいる世帯割合（町丁目別）



- ・ 65歳以上を含む世帯の割合は、加賀二丁目を除き、ほぼ、区の平均値（29%）に近い。
- ・ 加賀二丁目の割合は、区の平均値の半分以下である。

⑪人口属性-昼間人口指数（町丁目別）



- ・ 昼間人口指数（夜間人口を100とした場合の昼間人口）は、加賀二丁目と栄町が、区の平均値（92）の倍以上の指数を示す。

地域の特徴からみた被害想定

- 地区が幹線道路によって分断されており、災害時の著しい渋滞により、地区住民の安全な避難が妨げられる可能性がある。
- 木造密集市街地が分布しているため、建物倒壊や火災による延焼の危険性がある。
- 密集市街地は道路幅員が狭く、行き止まりも多いため、安全な避難や緊急車両の通行が妨げられる可能性がある。
- 石神井川付近の低地では、液状化する可能性が高く、地盤や地下埋設物（ライフライン）等の被害が想定されます。また、豪雨時に水害の心配もある。

出典一覧：①ミッドマップ東京 1/2500 地形図、②③首都大地震ゆれやすさマップ 2013 年旬報社、④板橋区都市計画マスタープラン、⑤H25.4 板橋区用途地域図、⑥～⑧H23 東京都土地利用現況調査、⑨～⑪H22 板橋区国勢調査